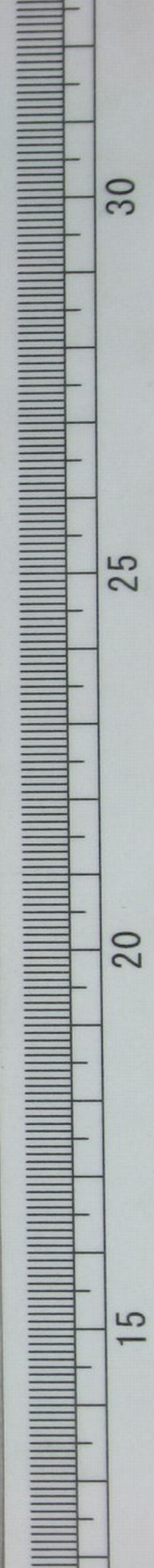
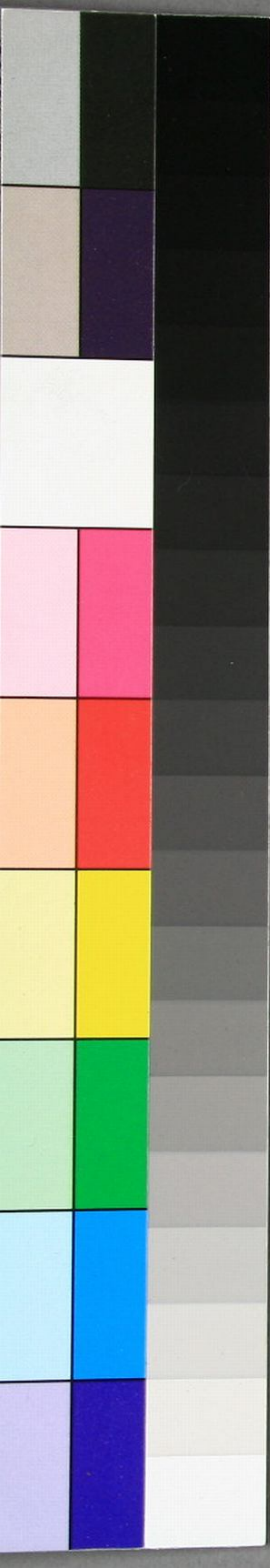


Handwritten cursive text on the left side of the illustration.

Handwritten cursive text on the right side of the illustration.





國魚

六扇下

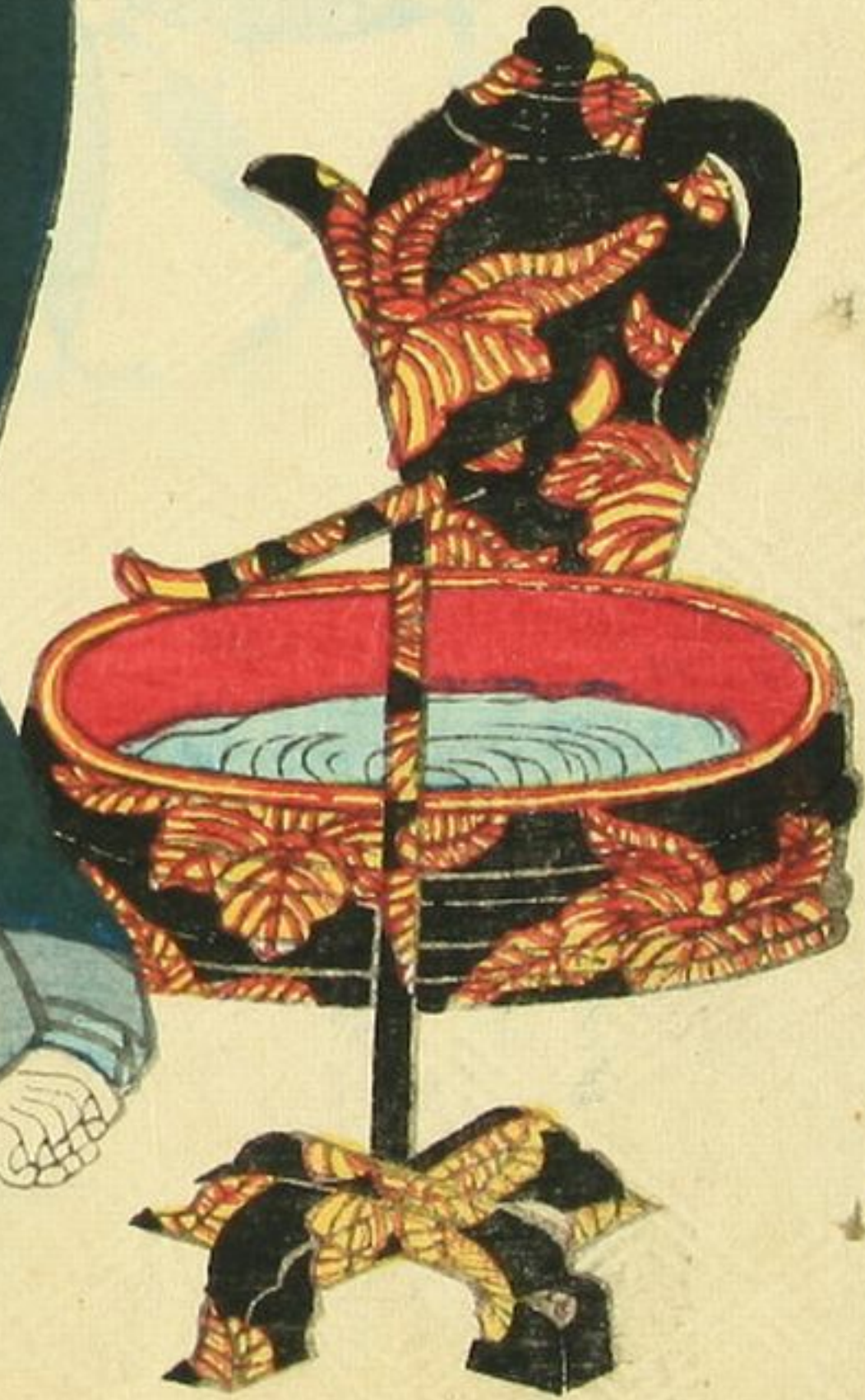
と
と

し
る

お
の
り

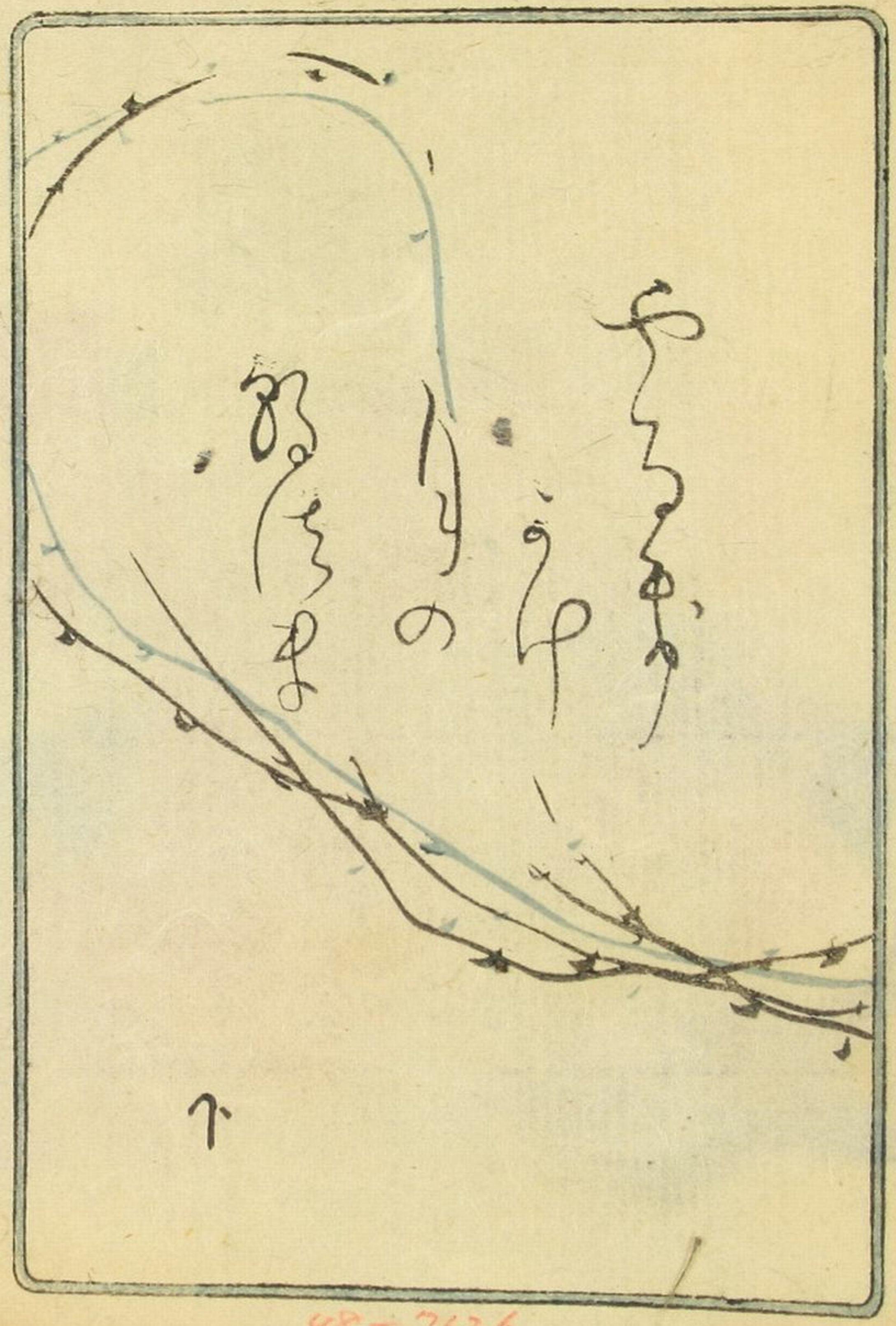
お
人
化

六扇上

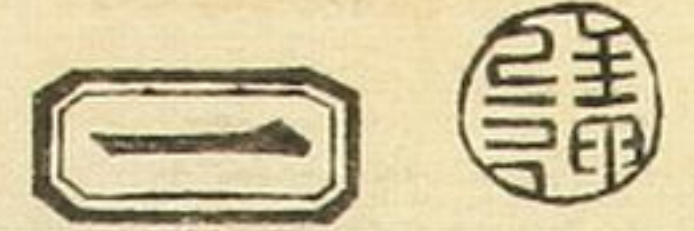


A 394

65



48-7626



世の中も三日見ぬ間の櫻木も梓も物も六うり。流行次第の押殺り。開化益進歩に至り禪史の如きの舊弊の一贅物と唱ふる中ふ。此史のおとれた始りより奇妙院が情落のさなを。一部の趣向と立一うと。既に僧尼の妻帯の許可あるうへ争ふ。地中を穿壁を抜き。臥房を造るの策畧あらんと。心附ての中くお。壁より先つ氣がぬけを。穴を穿つは作略のあらぬと。往昔も斯る事やありと。聊好古も足し。あらんと。不減口を。バ序も換て記す。

壬申仲夏

山々亭有人

理中書





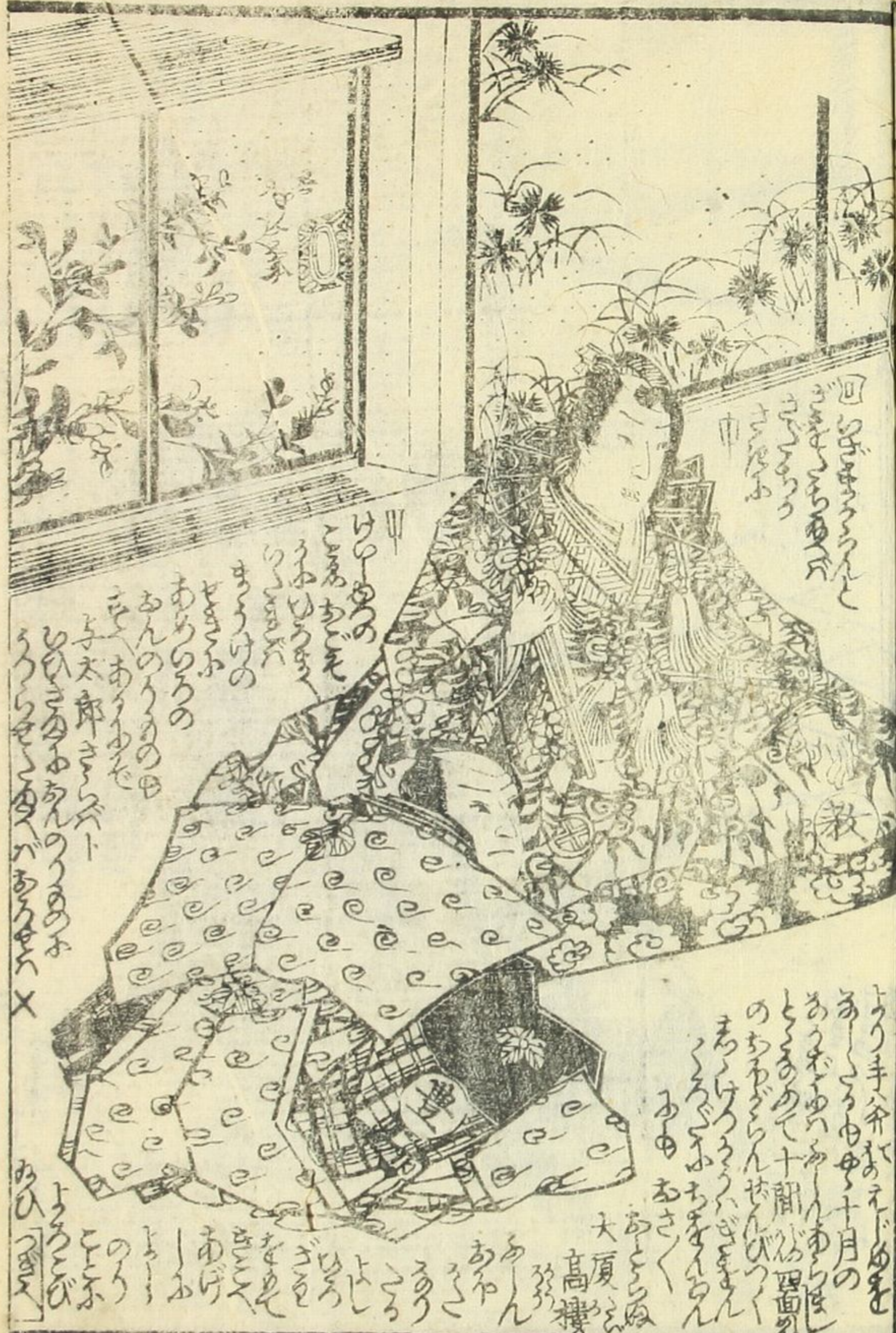
眞山家
中
駒井

奇妙院
真海



音川
勝元

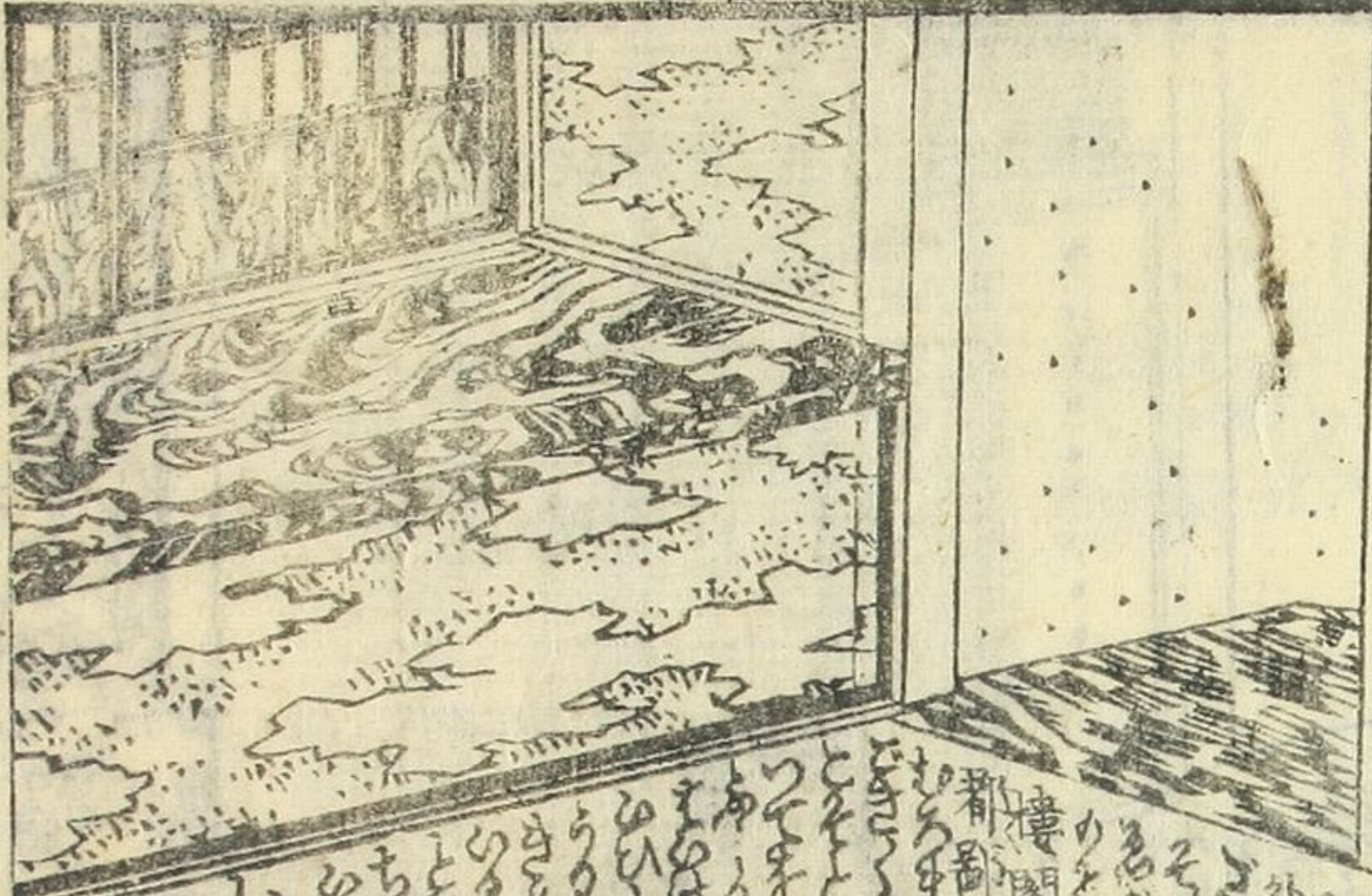
初巻



Handwritten Japanese text in the left column, including the characters '教' and '大夏高樓'.



Handwritten Japanese text in the right column, including the characters '神樂岡' and '代'.



外はさういふまゝで巻成り
 その庄嚴ははるあつた
 かしらつておぼろの
 樓閣ははるあつた
 都鄙ははるあつた
 かしらつておぼろの
 つまはつた
 あんのけつ
 かしらつておぼろの
 つまはつた
 あんのけつ



五
 かしらつておぼろの
 つまはつた
 あんのけつ



かしらつておぼろの
 つまはつた
 あんのけつ

かしらつておぼろの
 つまはつた
 あんのけつ



山々亭有人作
一陽齋豊國画

實母散

さんぜんさんご
ふとんちのみち
一四のめ茶

中橋南傳馬町東門
千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻

六編道
出板

山々亭有人作
梅朝樓國貞画

藪黄鵬八幡不知

五編道
出板

山々亭有人作
錦朝樓芳希画

阿玉ヶ池櫛月形

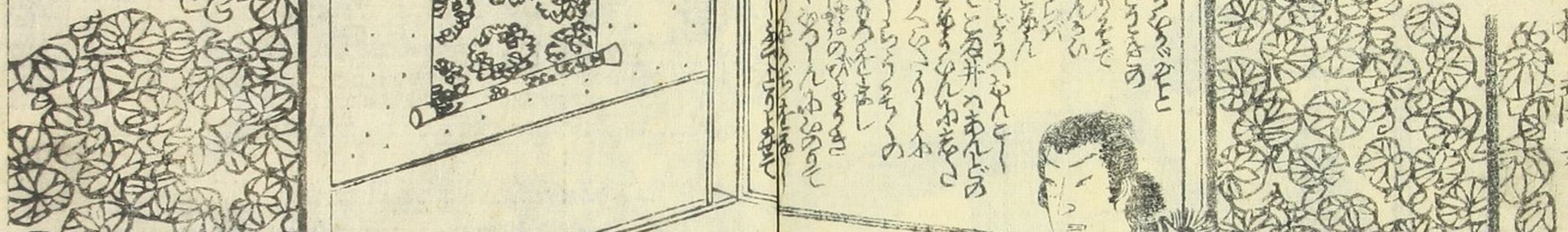
初編ヨリ
追々出板

山々亭有人作
一陽齋豊國画

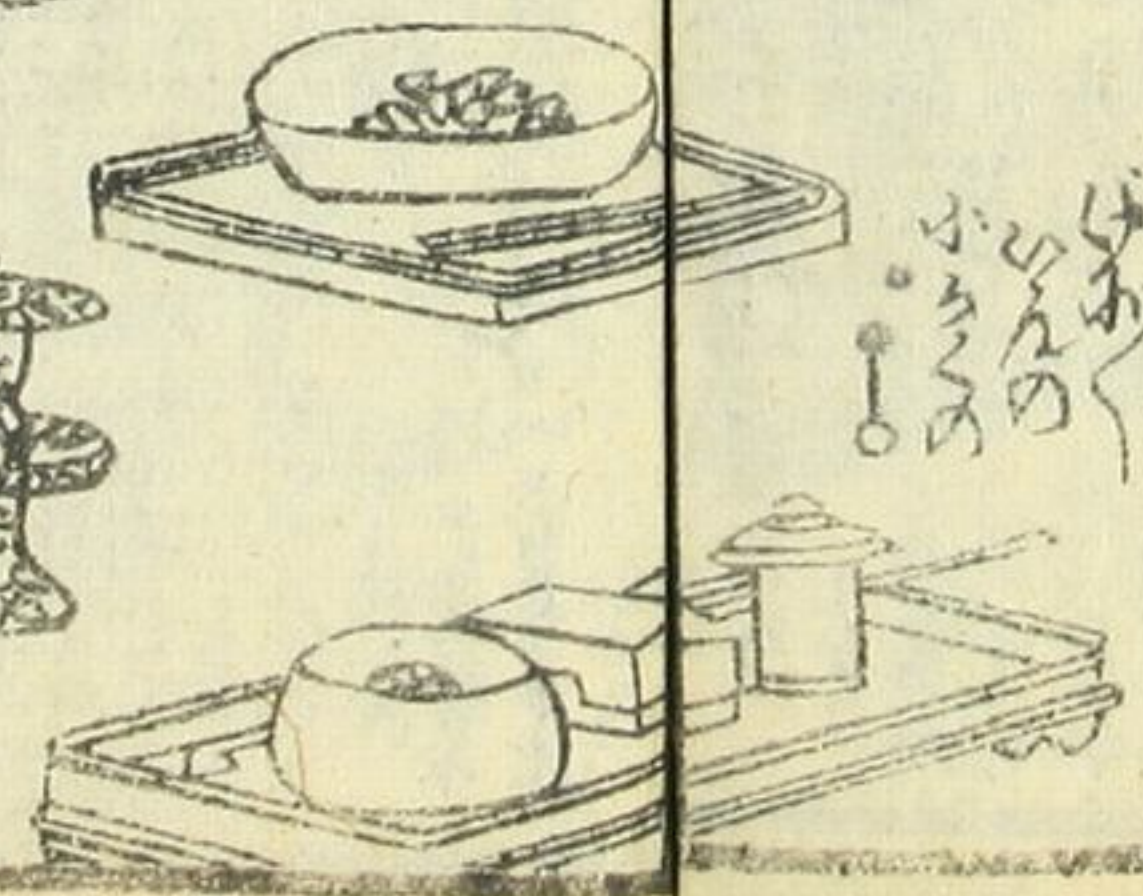
地本綿繪團扇問屋

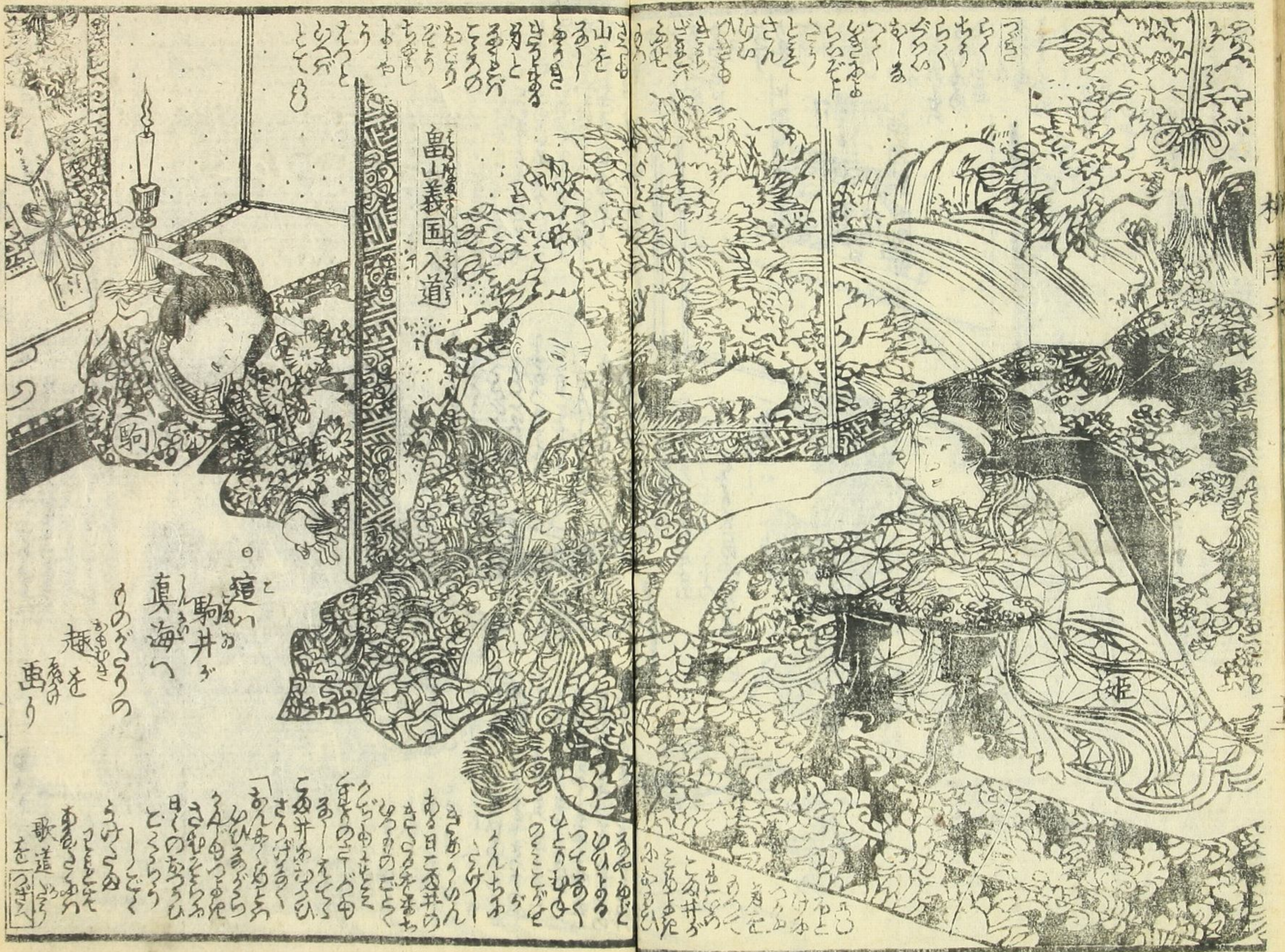
紅英堂 葛吉

Handwritten Japanese text at the top of the pages, including a signature on the left page and a title on the right page.



Handwritten Japanese text at the bottom of the pages, including a signature on the right page and a title on the left page.





ちりちり
さくらさくら
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

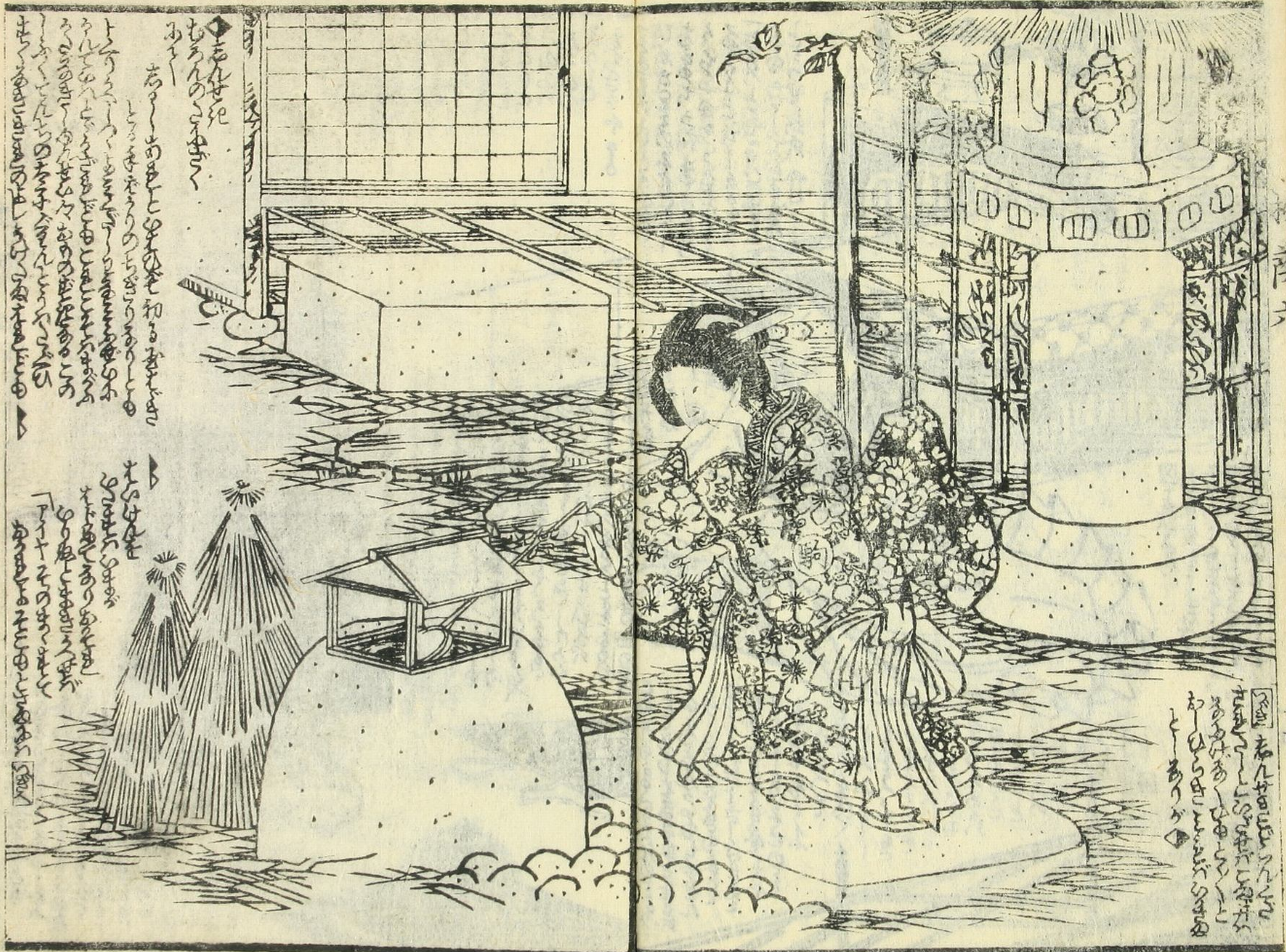
山を
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

島山義国入道

真海
駒井が
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

歌道
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a Japanese text. The text is arranged in several vertical columns, starting from the top left and moving downwards. It appears to be a detailed description or commentary related to the scene depicted in the illustration.

Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription from the upper section. It is positioned in the lower-left area of the left page, providing further details or context for the scene.

Handwritten text in a cursive script, located in the bottom right corner of the right page. It appears to be a concluding note or a signature related to the illustration.

藤葉集
 集引
 藤葉集
 藤葉集
 藤葉集
 藤葉集
 藤葉集
 藤葉集
 藤葉集
 藤葉集
 藤葉集

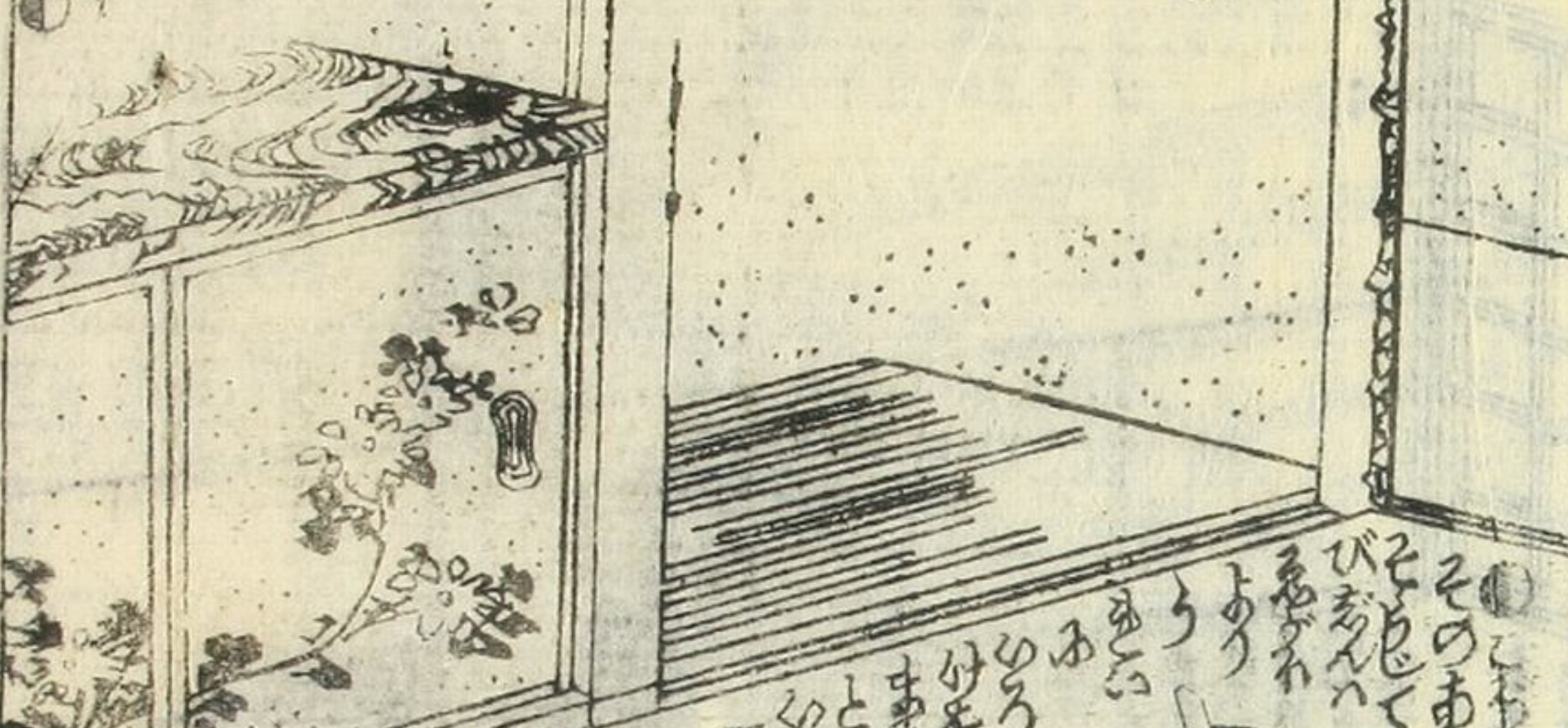


合の志加頁の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

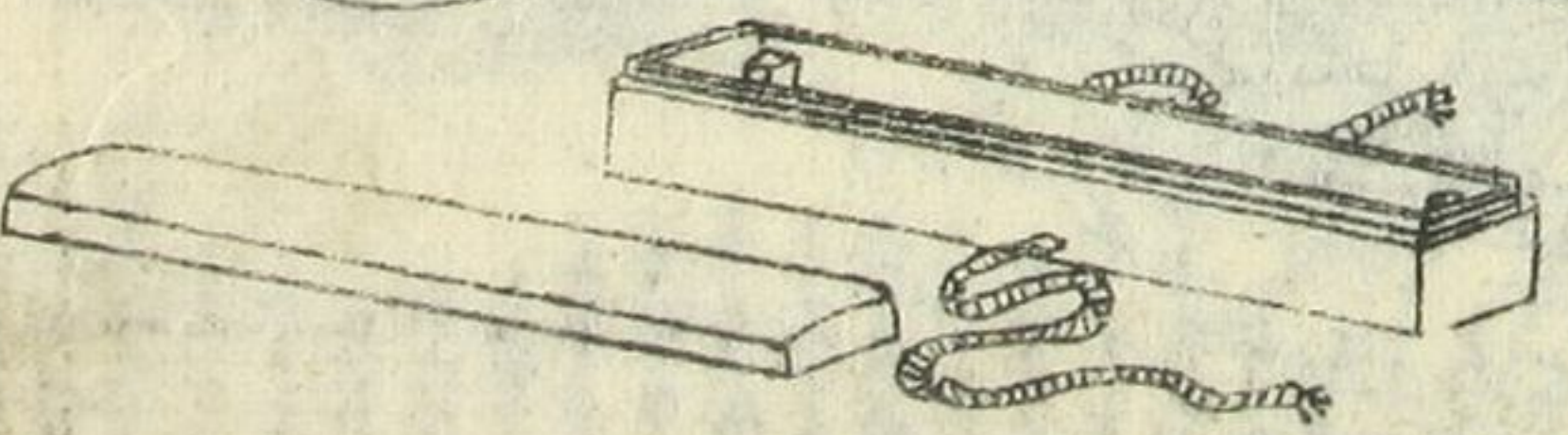


〇 T...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



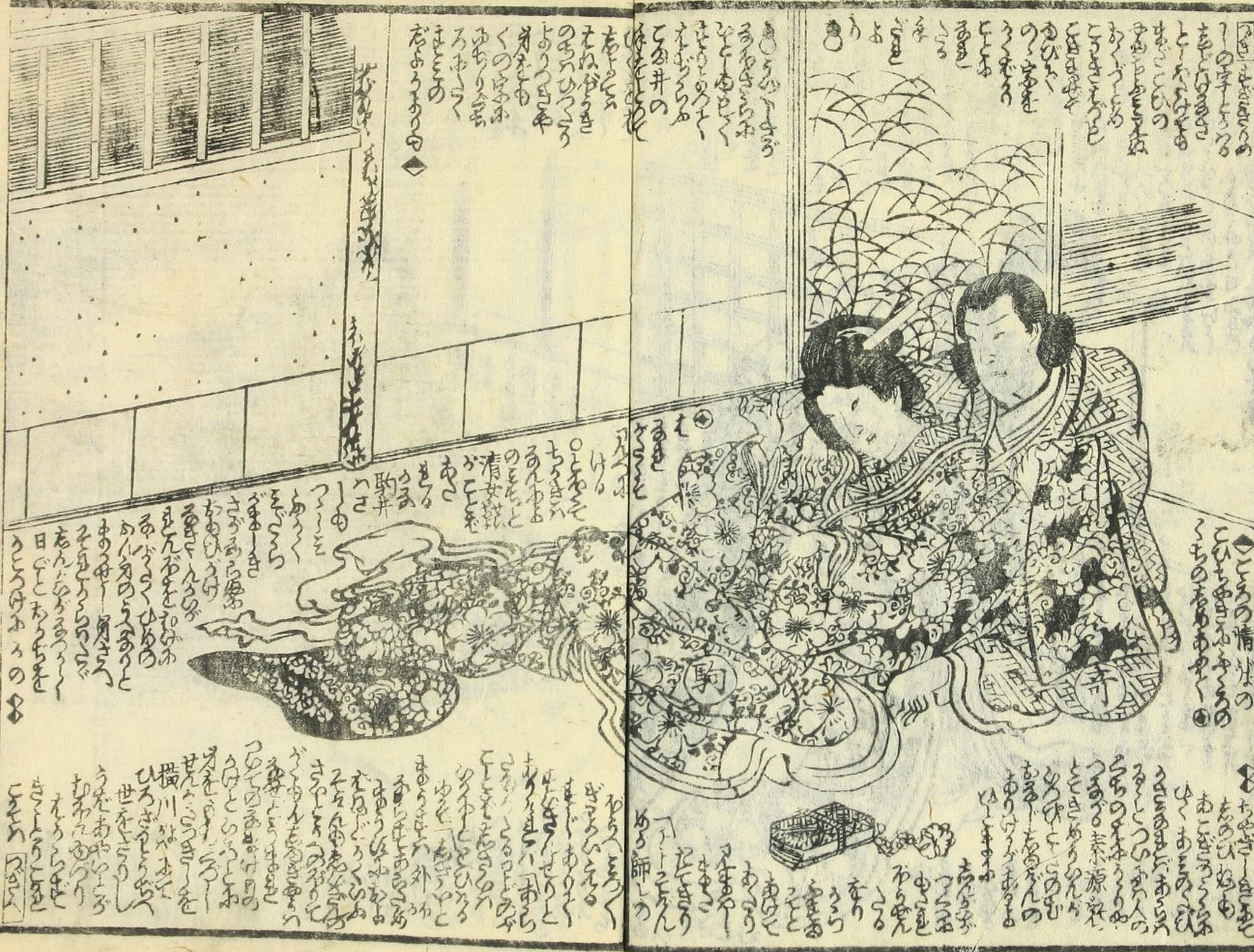
...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...
 ...

○花井小町の
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる

○花井小町の
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる



○花井小町の
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる

○花井小町の
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる

○花井小町の
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる

○花井小町の
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる

○花井小町の
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる
あやうき
いそぎ
まはる

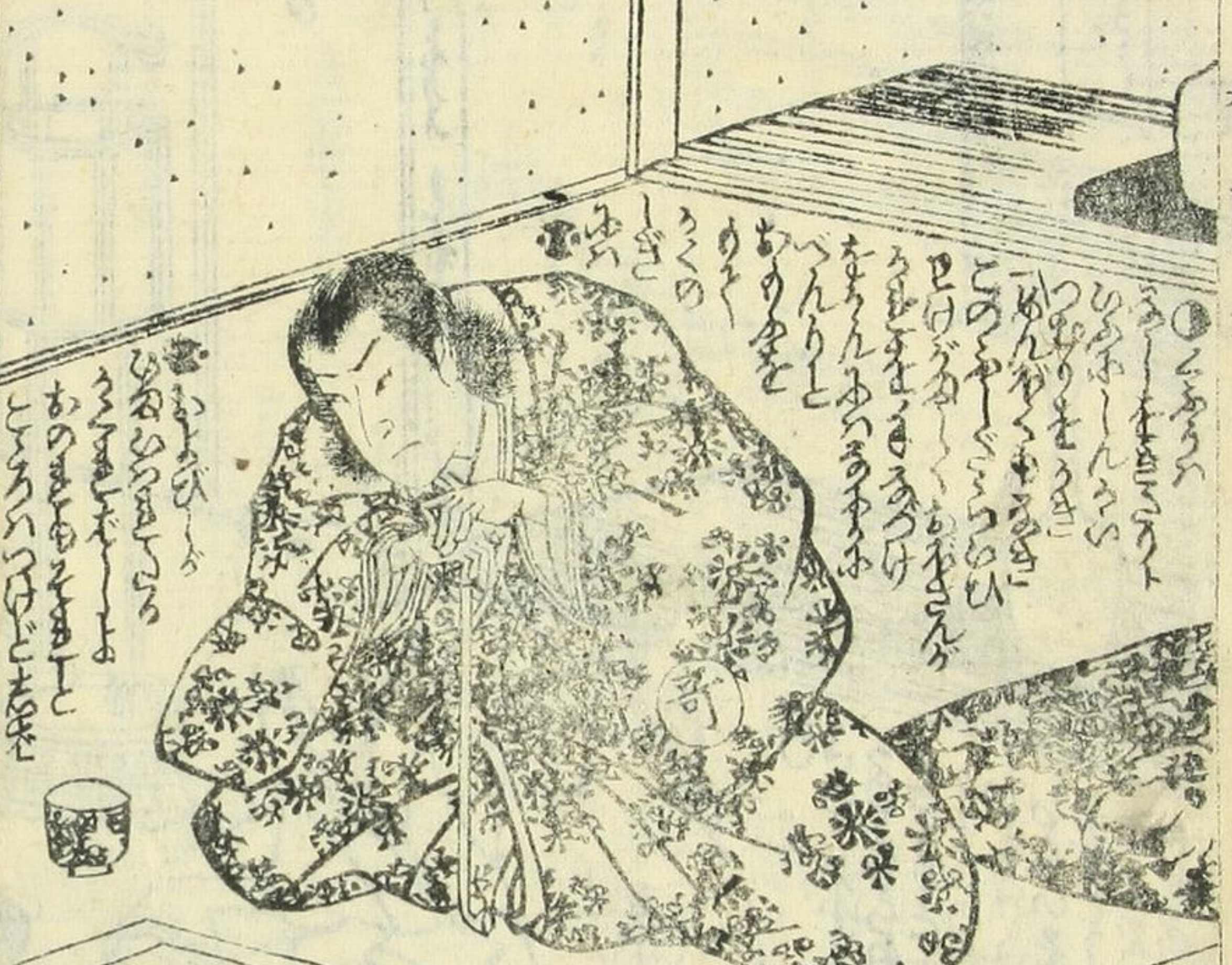
地中地を
 うらら井を
 志あつた
 ありては
 上のり
 りもは
 つつり
 まらせ
 うらら井を
 あらわす
 ありては
 せえん
 うらら井を
 あらわす
 ありては
 せえん



ありては
 せえん
 うらら井を
 あらわす
 ありては
 せえん

ありては
 せえん
 うらら井を
 あらわす
 ありては
 せえん

ありては
 せえん
 うらら井を
 あらわす
 ありては
 せえん



ありては
 せえん
 うらら井を
 あらわす
 ありては
 せえん

010190518359

明治七年甲戌陽春開板標目

厚化粧萬年嶋田

八編 春水作
十編 國貞画

室町源氏胡蝶卷

廿三 種彦作
出板 國貞画

鼠祠通夜譚

八編 種彦作
出板 國貞画

童謡妙々車

二十五 種彦作
出板 國貞画

薄俤幼日記

廿七 春水作
出板 國貞画

七姉と葛飾譚

十 迫 種彦作
出板 國貞画

新島九尾傳

十三 春水作
出板 國貞画

筆海四國聞書

十三 種彦作
出板 國貞画

明鴉墨画廻補襦

十五 種彦作
出板 國貞画

花封蒼玉章

十編 種彦作
大尾 國貞画

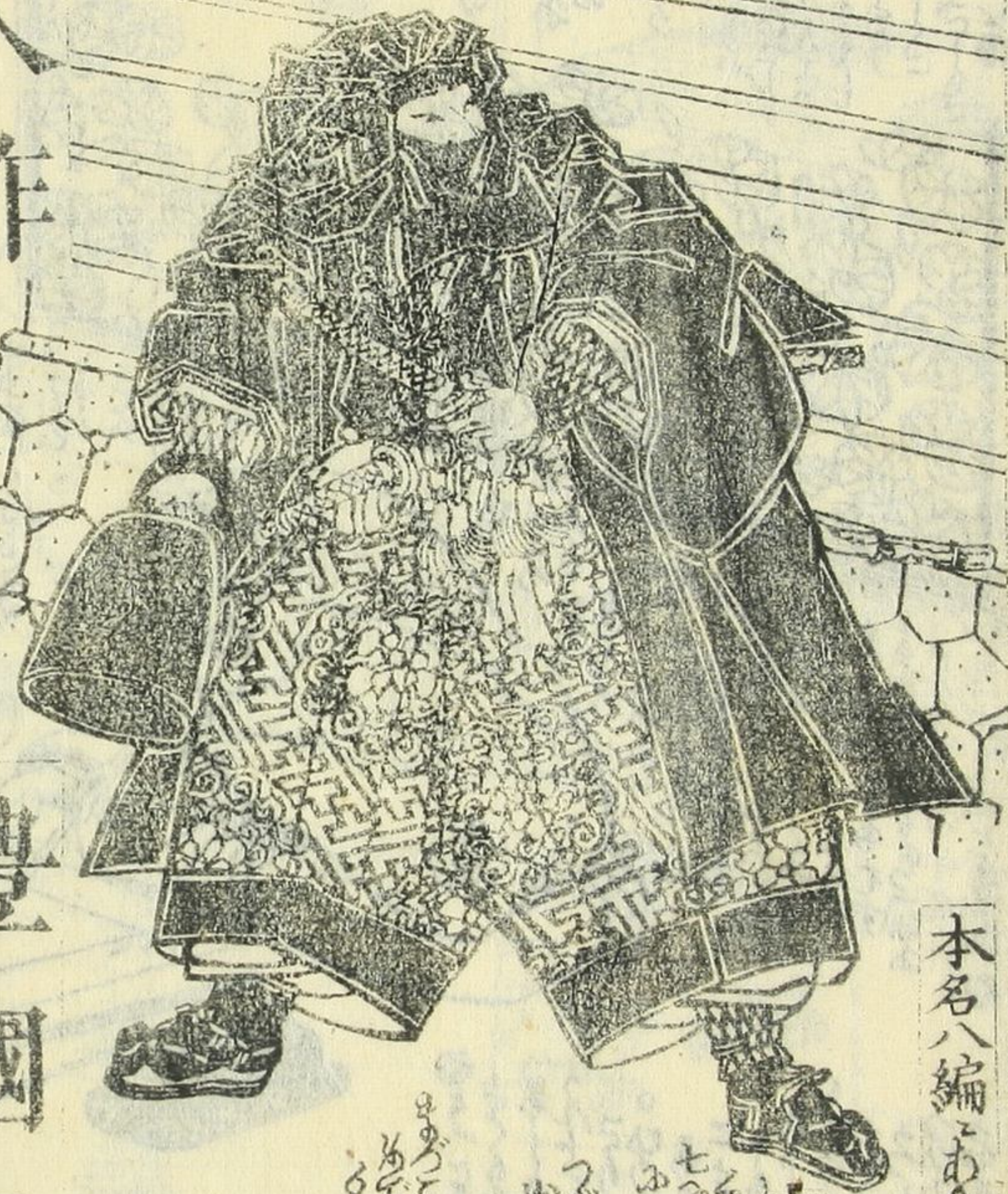
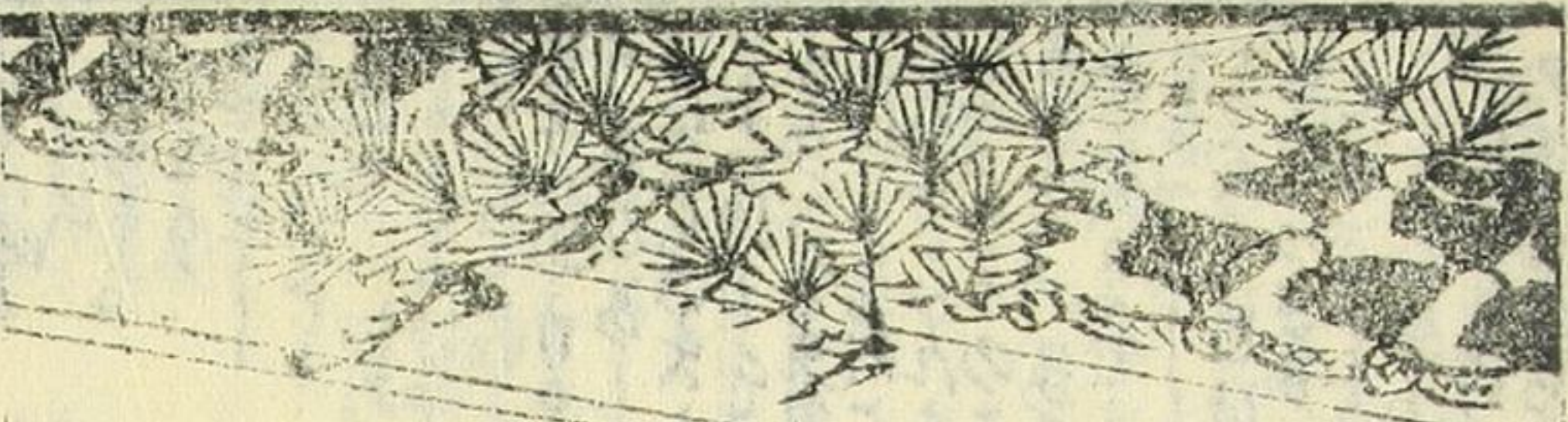
八犬傳大の双紙

五十九 柳亭作
出板 國政画

南傳馬町堂丁月
葛屋吉藏板

有人作

豊國画



本名八編あり

七十八編あり
出板 仕ゆ

